

皆さんお疲れ様です。西北五支部の中田です。

今回は、2月21日(金)にホテルサンルート五所川原で行われた、自称若手薬剤師の集い・研修会について報告します。

山田浩基先生(つがる総合病院)、前田一礼先生(白生会胃腸病院)が世話人となって毎年行われている研修会は、今年で第10回目を迎えました。

今回の研修テーマは「薬学実務実習のこれまでとこれから」ということで、會津曜子先生、吉田晴香先生(つがる総合病院)、白戸亜沙美先生(いちい薬局)による発表を聞いて、その後は発表者の皆さんや会場の先生方とのシンポジウムを行いました。

代表者の方々の薬局、病院での実習で学んだ事や、当時学んだ事が今の仕事にどのようにつながっているのか、といった事を聞いているうちに、過去の私の実習についても様々な事を思い出してとても懐かしい気持ちになりました。

また、発表内容を踏まえて、実習を通して苦労したことは何だったか、そして学生を受け入れる側として薬局、病院で今後より良い実務実習を行うためにはどのようなことに気をつけて、改善していけばいいか、といった内容での質疑応答も自由に行なわれました。

このように薬局、病院の先生方の学生時代の実習経験を聞いて、今後は学生に指導していく立場として改善点を一緒に考えていく機会がめったにないので、とても貴重な時間だったように思います。

今回はあくまでも「自称」若手薬剤師の会ということなので、当日は様々な年齢の先生方が薬局、病院どちらからも30人以上参加していました。

研修会を終えた後は懇親会も開かれ、薬局、病院という職場の垣根を越えた交流を通して親睦を深めることが出来ました。

西北五支部では、今後もこの様な研修会を継続していく予定です。

最後に、この研修会を企画し、司会進行をして下さった山田先生、前田先生、そして発表者の會津先生、吉田先生、白戸先生どうもありがとうございました。

